

メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第85号

[2016年6月

号]

NPO法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。
JAM 会報メール第85号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へJAMの最新の活動をほぼ毎月中～下旬ごろ会報メールにて発信いたします。
今後ともどうぞよろしく願いいたします。

<目次> [ページ]

今年もスタディツアー開催決定！

メソトマンスリー

国内から

編集後記

次号の予定



今年もスタディーツアー開催決定！

今年度も、毎年恒例のスタディーツアー開催が決定致しました！

メータオ・クリニック支援の会のスタッフとともに、国境のビルマ／ミャンマー難民診療所を訪れ、国際医療・国際保健に触れてみませんか？

<スタディーツアーの概要>

【日程】9月5日（月）～9月10日（土）

【場所】タイ王国北西部メソット市

【活動内容】

- メータオ・クリニック訪問
- 難民キャンプ訪問
- ビルマ／ミャンマー移民学校訪問
- 国境観光

【参加費用】8万円（往復航空券は含まれておりません）

【定員】8名

【申込締切】7月20日（月）

【お申込方法】

以下を明記の上、申込みする旨をメールで support@japanmaetao.org（担当：山城）へお送り下さい。

メールタイトル 「2016年スタディーツアー申込み」

- (1) 氏名
- (2) 住所（都道府県のみで結構です）
- (3) 年齢
- (4) 職業
- (5) その他ご希望があれば記載してください。

メソットマンスリー

【メソット＝神谷 友子】



最近のメソット

<メータオ・クリニックの移転開院式典が実施されました>



5月28日に新しいクリニックにて移転開院式が行われました。

式には、ミャンマー国内やタイ国の役人さんも参加され、クリニックをサポートする各団体やボランティアの方々、クリニックのスタッフや地域の住民の方など多くの方が集まりました。式典のあいさつでは、英語・タイ語・ミャンマー語・カレン語の4つの言語で通訳されていて、クリニックにたくさんの地域の人に関わっていることを改めて実感しました。シンシア院長からも、メソトの地でのミャンマー移民に対する医療を継続していくとの話がありました。

前日の式典の準備には、移民学校の生徒が飾りつけをしたり、元クリニックスタッフである難民画家のマウンマウンティンさんがミャンマーの有名な画家から集めた絵画でファンドレイジングのギャラリーを開くなど、手作りの式典であり、クリニックが地域から愛されていることが感じられました。

この新しいクリニックの移転に際して、日本からも多くのご支援を頂きました。心より感謝申し上げます。



移転開院式典でのテープカット



会場の様子。たくさんの方がお祝いに来てくださったので、中に入り切れずに外から見ていた人



もいました。

< azbil みつばち倶楽部様からの助成金事業が終了しました >

昨年度に azbil みつばち倶楽部様よりお預かりしました助成金にて、①小児科病棟への患者様用の寝衣 ②手洗い教育用の手洗いチェッカー ③新しいクリニックに設置する屋外用のゴミ箱を導入させていただきました。

毎年引き続いてのご支援ありがとうございます。導入後のフォローアップを、現地スタッフと一緒にしていきたいと思っています。



クリニック受付正面にゴミ箱を設置しました。ゴミの分別が分かるように写真やイラストが貼ってあります。

< 移民学校の生徒さんへ鞆の寄付が届きました >

以前にもご寄付いただきました、京都にある一澤信三郎帆布様より、たくさんの素敵な布製の鞆の寄付が届きました。引き続きの温かなご支援、ありがとうございます。

今回お預かりした 157 個の鞆は、メータオ・クリニックの学校保健部門を通じて移民学校に通う生徒さんたちにお届けしたいと思っています。現地スタッフが「私も欲しい！」と言うほど素敵な鞆です。ミャンマー移民の健康を支えるメータオ・クリニックのスタッフもまた十分な給与が支給されていないため、なかなか自分で新しい鞆を買うことができないのです。

移民学校にお届けしたら、またご報告させていただきたいと思います。





日本から届いた荷物を一緒に確認しました。子どもたちに素敵な贈り物ができると、スタッフもうれしそうです。

国内から

【長野＝秋山】

メータオ・クリニックでの思い出

長野県在住の秋山剛と申します。駒ヶ根市にある看護大学に講師として勤務しています。現在は職場が変わったこともあって、なかなか現地へ行く機会がないのですが、数年前までは年に数回、数週間から最大で3ヶ月ほど現地に滞在し、本会に関する学校保健関係の調査やプロジェクトの調整をメータオ・クリニックの学校保健担当部と協力して実施していました。

私が滞在していた当時、クリニックの学校保健担当部は、近くにある雑居ビルの1階にある店舗向けの物件を事務所にしていました。風通しが悪く、暑かったので、デスクワークは午前中のまだ気温があまり高くないうちに、できるだけ進めておくことにしていました。この雑居ビルは数階建てでしたが、全体に移民が居住しており、この事務所はまさにコミュニティの只中にありました。事務所の隣にある他の店舗スペースは雑貨屋やパーマ屋などであったと記憶しています。飲料やスナックがすぐ買えるので、大変便利でした。朝、事務所のシャッターを開けると、大抵スタッフの一人が寝ているといった、職住一体となった環境でした。ある日、お昼になると、スタッフが事務所の中でコンロを使って白菜炒めを作りだし、これも事務所にあった炊飯器からよそってくれたご飯と一緒に、私もお馳走になりました。スタッフの家で昼食をとることもありました。

活動の上で、いろいろ経験をさせていただいた一方で、上記のような、なんでもないようなことをまず思い出します。こういった全く文化も言語の違う人たちに受け入れられるという経験は、大変貴重なものだと思います。私の場合、あまり体調をくずすこともなかったので、滞在中は概ね楽しく業務にあたることができました。これから赴く方にも、是非有意義に過ごし、良い思い出作っていただければと思います。



